
絆

紅 譜祢

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

絆

【Nコード】

N1426P

【作者名】

紅 譜祢

【あらすじ】

青春物語です。

あんまりばくありませんが・・・

「りようちゃん、ゆうちゃんは性格全く違うのに、仲良しだね。」
これは小学校の時に近所のオバサンにいわれたこと

「亮輔とゆうさ、性格真逆なのに、いつも一緒にいるよな。」これは、中学校の時に友達にいわれたこと。

そう俺亮輔と幼なじみの雄太は性格が全くちがく、俺は携帯や、パソコンを当たり前のように毎日使い、学校の休み時間では、友達と一緒に外で遊ぶ派だが、雄太は図書委員で、携帯やパソコンを持ってないが、図書委員で少しはパソコンを使える。休み時間になると、真っ先に図書室に行き仕事をする。

そんな俺達がなんで仲良しなのか？それは俺にも雄太にも分からない。ただ気づいたら一緒にいて、仲良くなっていただけなんだ。

昔雄太が学校に来なくなつた。その原因は俺にあった。

雄太が不登校になって、二週間がたった時、俺はしびれをきらして雄太の家にいった。雄太は部屋で寝ており、声をかけても返事なかった。「どうしたんだよ最近学校に来てないじゃん。悩みでもあるのか？よかつたら聞いて」

そこで雄太は俺の話を遮り大声で「人の心配するなら、まず人のことを考えてよ！いつもいつも人のことを考えてないで、横から口出しするし、人の嫌がる事やって、何が楽しいの？それに休み時間になると、すぐに外に行っちゃうし、たまには図書室に来てよ！寂しいんだから。」

雄太の目には涙が溢れ出ていた。「……」俺は絶句した。今まで雄太のこんな大声を聞いたことは全くなくしかも怒鳴り気味で初めて聞いた。「なんかゴメン、全然気づかなくて。いやだったんだね。本当にゴメン。俺はそんなに本好きじゃないけど、嫌いな訳じゃないからさ、雄太が担当の日は絶対に行くよ！」「……こっちこそゴメン。いきなり怒鳴って。でもなんかスッキリしたよ。ありがとう。」そ

れでも少し空気は重かった。なんか話す事はないか？……！そうだ
「そうだ雄太、お前携帯買おうぜ。何かあった時には便利だよ。それにうちの高校携帯OKだし、買えよ？」俺が威勢よく言うと不安げ「そんなの無理だよ。使い方分からないし」「そうか。！だったらパソコン買えば？委員で使っんでしょ？パソコンでメールも出来るし、色んなサイトも見れるしそれならオバサンにもOKもらえるでしょ？」「そうかも、そうする」

そして雄太はかわった。パソコンを買ってもらってしょっちゅうメールが来るようになり、一番驚いたことは、委員の仕事がない日にあれだけインドアだった雄太が「一緒に外に行ってもいい？」と言ったのだ。あまり運動が上手くないけど、みんなと溶け込んで、楽しく遊んでいる。

こんなことがあって、今は雄太と前以上に仲良くなった。俺も雄太が仕事の日には図書室に行っている。やっぱり細かい字を読むのは馴れないが、雄太の仕事っぷりを見るのはとても楽しかった。（いつまでも仲良くいような。）心の中でそう呟くと、雄太はこっちを向いてニコツと笑顔で笑った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1426p/>

絆

2010年11月26日05時17分発行